

BEARSKIN

An Urban Fairytale

ベアスキン

STORY

ラスヴェガスでボクサーだった男シルヴァ。ヨーロッパのとある街に流れ着き、パンチ&ジュディ(街頭人形劇)を糧とする毎日。そんなある日、少年ジョニーがやっかいな事件と共に人形劇一座に転がり込んできた。アメリカの酔いどれ詩人、トム・ウェイツがその魅力を遺憾なく発揮したイギリス・ポルトガル映画「ベアスキン」。

この映画は、ベルギー生まれでグラフィック・デザイナー出身のアンと、ポルトガル生まれでコマーシャル・フィルムを手掛けていたエドワード・ゲディスの二人による共同監督作品。

きめ細かなロケハンによって選り出されたイギリスとポルトガルの街景が全編に織り込まれ、現在の寓話の舞台となるにふさわしい架空のヨーロッパの都市を描き出している。

STAFF ●監督/アン&エドワード・ゲディス Ann and Eduardo Guedes
製作/エドワード・ゲディス Eduardo Guedes
レオティーネ・ルット Leontine Ruette
撮影/マイケル・コルター Michael Coulter
編集/エドワード・マーニエ Edward Marnier
美術/ジョク・スコット Jock Scott
ルイス・モンテロ Luis Monteiro
音楽/マイケル・マックヴォイ Michael McEvoy

CAST ●シルヴァ/トム・ウェイツ Tom waits
ジョニー/デモン・ローリィ Damon Lowry
ケイト/シャーロット・コールマン Charlotte Coleman
ローラ/ジュリア・ブリットン Julia Britton
ジョーダン/ビル・ペーターソン Bill Paterson
ミセス J/イザベル・ルス Isabel Ruth
ハリー/アレックス・ノートン Alex Norton
チャーリー/イアン・デューリー Ian Dury

1990年/イギリス・ポルトガル/カラー/95分/1:1.66/ドルビーステレオ/配給:アップリンク



フェアリーテイル 都会の夜の一幕寓話



「これこそウェイツ!」

室矢憲治

うだつのあがらない失業中のDJ、裏町酒場のピアノ弾き、クラブ・マネージャー、ビリヤード場の親父、あらゆる犯罪、いかれた殺し屋、重病病みのホーボー——ろくにクレジットもされてないチョイ役から、堂々ジャック・ニコルソン、メルル・ストリープを相手に回した『黄昏に燃えて』の大役まで、これまで『俳優トム・ウェイツ』がスクリーンの上で演じてきた役どころを振り返ってみると、『裏通りの酔いどれ詩人』という、ウェイツの歌の世界に登場する人々そのまんまだということは、ちょっと昔のウェイツのミュージック・ワールドを知る人ならすぐにわかることだろう。一言で言えば社会の底辺でうごめく心やさしい負け犬だ。

でも、役柄の大きさに関係なく、カメラのレンズが向けられれば「その瞬間はその役のキャラクターになりきって力いっぱい」の演技を続けるウェイツ。その奮闘ぶりを映画館の片隅で見つめ、「チェツ、もっとデカい、もっとほんとにウェイツらしい役をやらせてやりたいよな」と舌打ちしながらも、音のしない熱い拍手を送り続けてきたファンたち……そんなファンたちにとってみれば、この『ベアスキン』は「これこそウェイツ!」と快哉の叫びを上げたくなるような映画じゃないだろうか。

トレードマークのしわがれ声には、いつかの奥にしこまれた長ドスがキラリと光るんじゃないか、みたいな抑制が効いてるし、二人だけの人形劇団の座長という役柄も、いかにもわけあり風だし……ドキドキドキ。天使も悪魔も、あげくはスーパーヒーローも飛び出して、このミステリアスな男、シルヴァは、まさに90年代のトム・ウェイツに僕らが抱くイメージにドンピシャの役どころなのだ。

「台本をもらった時から、リアルな部分とファンタジーの部分のまじり方が気に入ってね。それですぐこの役は俺がやらなきゃって気になったんだ」。クランクアップ直後のインタビューでそう語っていたウェイツ。

「それに人形劇というのすごく気に入ったのさ。10才位の頃、家に人形がたくさんあって、よく近所のガキ仲間集めて興業をやったもんだ。ラジオを分解して作り直すシーンも、昔よくやったから……。自分の体験してきたことと演じる役の間にコネクションがあるってのはいいよ」。

映画の中の暴力的でめちゃくちゃアナーキーな人形劇シーン、見守る子供たちが狂喜乱舞させるあのシーンは、子供という存在が決して大人たちが悪いこんでいるような天使だけの存在ではないと知っていた、かつてのアンファン・テリブル、トム自身の最初のパフォーマンスの再演? そんなことを考えながら見ていると興味の度合いも倍増するというものだろう。

今再び、映画俳優としても注目を浴びる個性派ヒューマンストの新作!

NOW ON SALE!

— 永遠の酔いどれロック詩人 —

ボーン・マシーン | トム・ウェイツ

「ナイト・オン・ザ・プラネット」「ソードフィッシュトロンボーン」
「レイン・ドッグス」「フランス・ワイルド・イヤーズ」
「ビッグ・タイム」全タイトル発売中!

CD: PHCR-1710 ¥2,500(税込)

a PolyGram company

presented by nippon phonogram

TOM WAITS

TOM WAITS

酔いどれ天使の唄

パトリック・ハンフリーズ著/室矢憲治訳

四六変型判・上製 定価1800円(税込)

ペールに包まれたトム・ウェイツの半生を明らかにした初のバイオ・ストーリー。早くも名著と呼び声が高い特別編集集。

<問い合わせ> 大栄出版 03-3982-6726

12月26日(土)よりレイトロードショー 9:20pm—11:00pm
12/31(木)—1/3(日)休映

当日料金: 一般¥1700 大・高生¥1400 前売り券: ¥1400(劇場窓口、チケットぴあ、チケットセゾンのみ)
●シネセゾン渋谷劇場窓口で前売り券お買い求めの方にトム・ウェイツ特製ポストカード(2枚組)をプレゼント。

前夜祭: トム・ウェイツのライブ・フィルム「ビッグ・タイム: BIG TIME」
12月25日金/9:20pm/シネセゾン渋谷/当日券のみ¥1300均一

シネセゾン 渋谷

渋谷道玄坂 ザ・プライム6F 03-3770-1721